教育機関や療育機関の
補聴器販売店との連携を求めて

2018年7月

補聴と聴覚活用研究会　サマーフォーラム

話題提供

概　要

- 2018年6月に神奈川県内の認定補聴器販売店へ調査を行った。日本補聴器販売店協会の副理事長の新井英希様にご協力いただいて調査した。
- 半数の販売店の54名の担当者から回答が得られた。
- 主な調査結果について以下にご紹介します。
- 調査にご協力いただきました神奈川県内の認定補聴器店の皆様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

補聴器にかかわる人間模様

①ユーザー

②補聴器販売店
(専門店・兼業店、他)

補 聴 器

③補聴器メーカー

④教師・言語聴覚士

①補聴器ユーザーやその保護者から

- 学校や施設を通して求められるサービス
  - フィッティング技能
  - イヤモールドの製作
  - 補聴器の情報
  - 周辺機器の情報
- 学校や施設から離れた場合、求められるサービス
  - 利便性を第一として
  - 技能・情報、信頼関係を基にして

②補聴器を販売する側から

- 補聴器の販売は、認定の専門店と兼業店(メガネ)、非認定店
- 日本補聴器工業会(主な補聴器メーカーが加盟)
- 公益財団法人テクノエイド協会(厚生労働省の外郭団体)
  - 認定補聴器技能者(一定のカリキュラムと認定試験)、3800名余り
  - 認定補聴器専門店(一定の設備やサービスの保有)、780店舗
- 日本補聴器販売店協会
- 日本補聴器技能者協会

結局は個人の資質にあるが、団体としての自主規制があり、質保証や責任の所在が明確な点に信頼感がある

③補聴器メーカーから

- 補聴器メーカー同士の統廃合、競争の激化
- 毎年のように新製品が販売され、カタログが更新される
- 技術資料の提供、毎年のように企業セミナーが開催され、知識や技術の更新
- 主な補聴器メーカー：オーティコン、フォナック、GNヒアリング、ワイデックス、シーメンス、バーナフォン等(ヨーロッパ勢)とスターキー、ユニトロン、ベルトーン(北米勢)、コルチトーン、Panasonic、リオン(日本)、他

④-1　学校や療育施設から見る

- 小児に対する教育や療育の一環として補聴器サービスの充実や利便性
  - イヤモールドの作製
  - 補聴器や周辺機器の情報
  - 補聴器フィッティング
- 公的な機関として、特定の補聴器業者に偏らない公平性
  - 複数の販売店
  - 一店舗の場合は複数の補聴器メーカーを扱う

④-2 教師や言語聴覚士から見る

- 教師は教育の専門家であり、教育上の必要性から聴検や補聴器のフィッティングを行っている。勤務期間に上限があり、他校に転校すると専門性を維持することが困難な場合がある。
- 言語聴覚士は聴覚や言語に障害がある人のリハビリテーションが専門であり、本来、補聴器についての専門家ではない。

↓

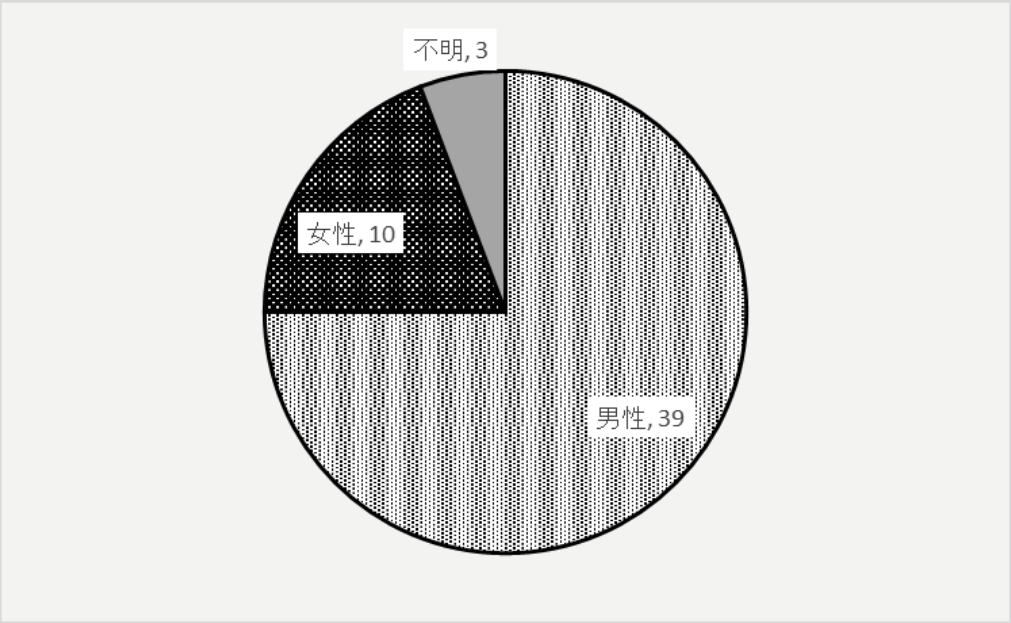
- 学校や療育機関では補聴器販売店との連携が求められている

神奈川県下の認定補聴器販売店への質問紙による調査結果

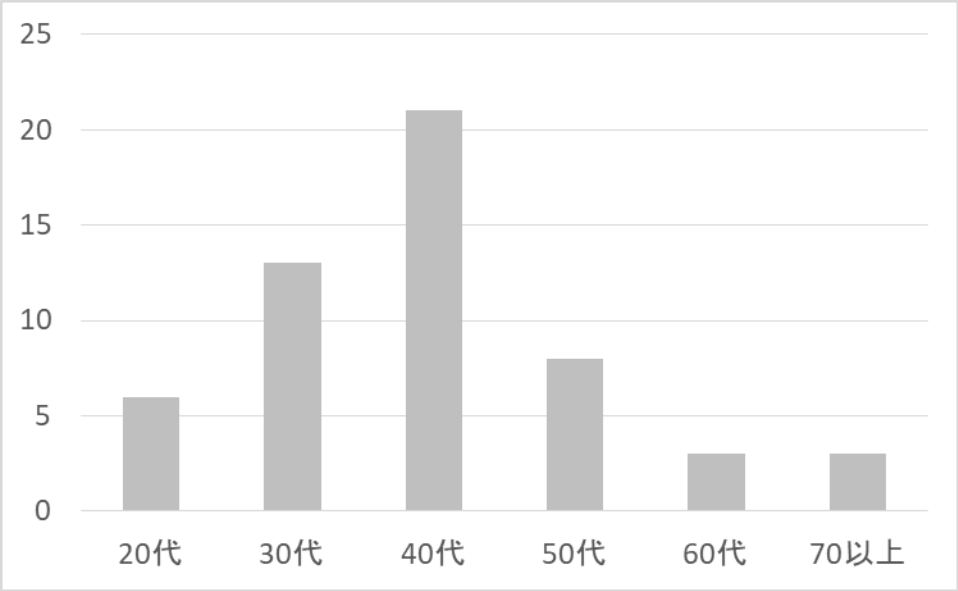
- 調査対象の54店舗にアンケート用紙を郵送し、約50%の回収率
- 51名の担当者からの回答の分析結果

①男性が3/4を占める

②30～50代の方が多い

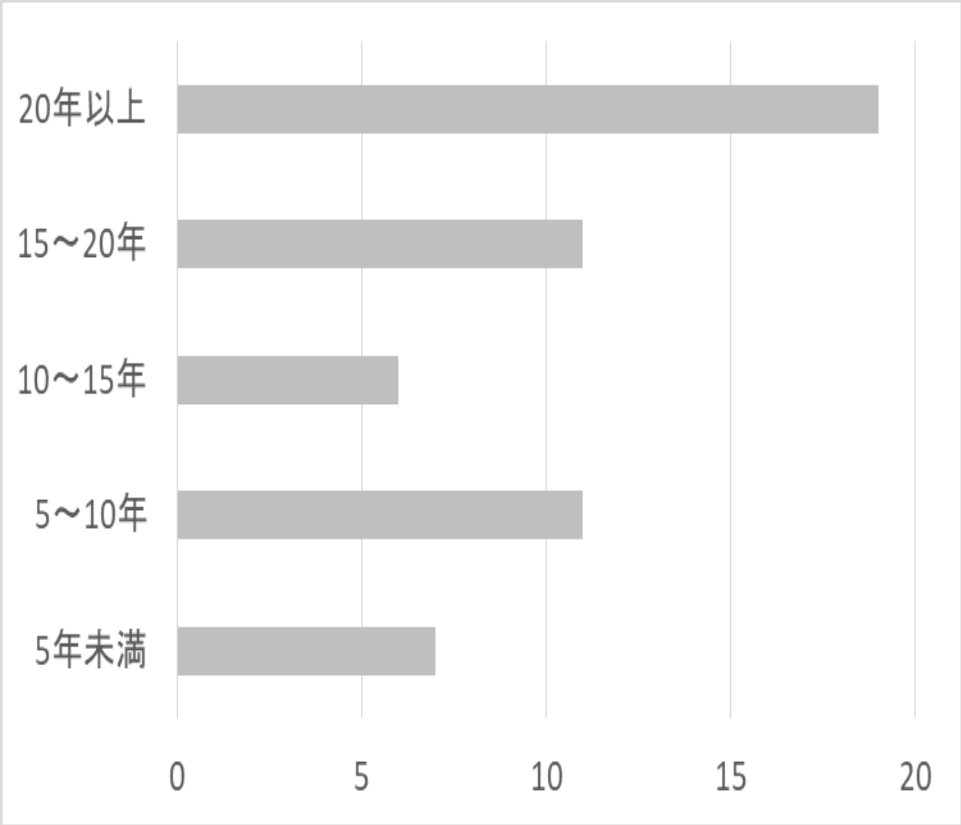


年代（人）

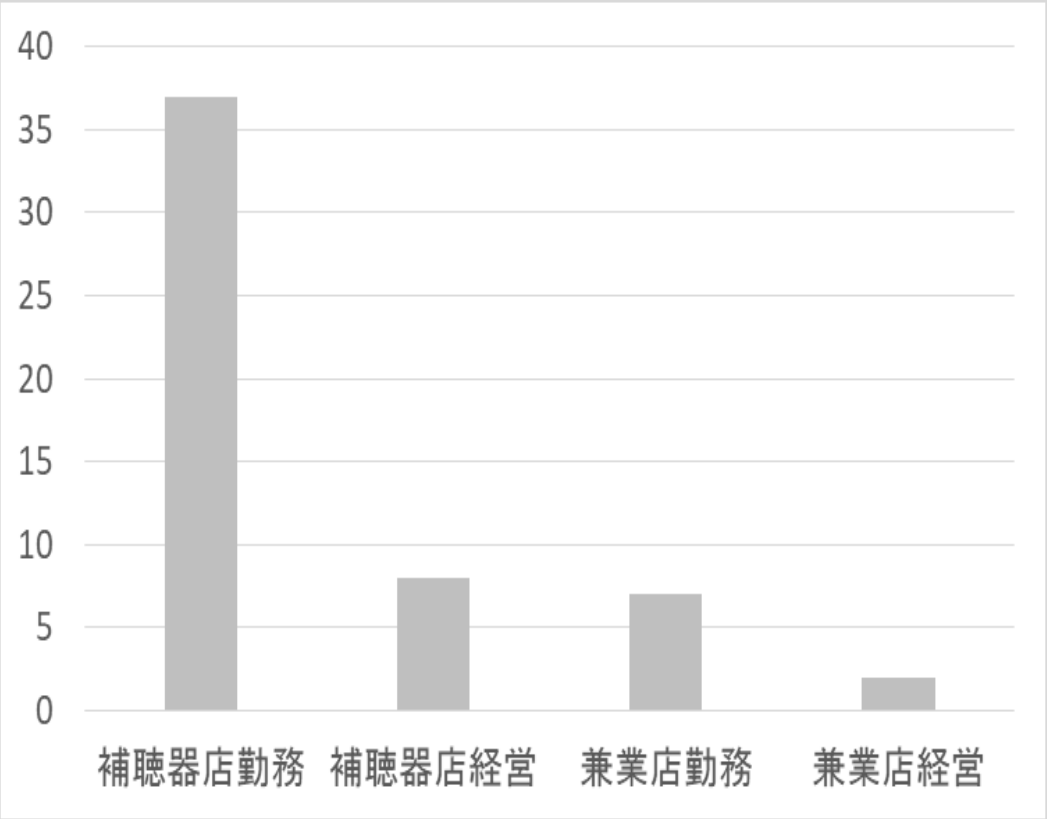


③10年以上の経験者の方が多い
④回答は補聴器販売店に勤めておられる方からがほとんど

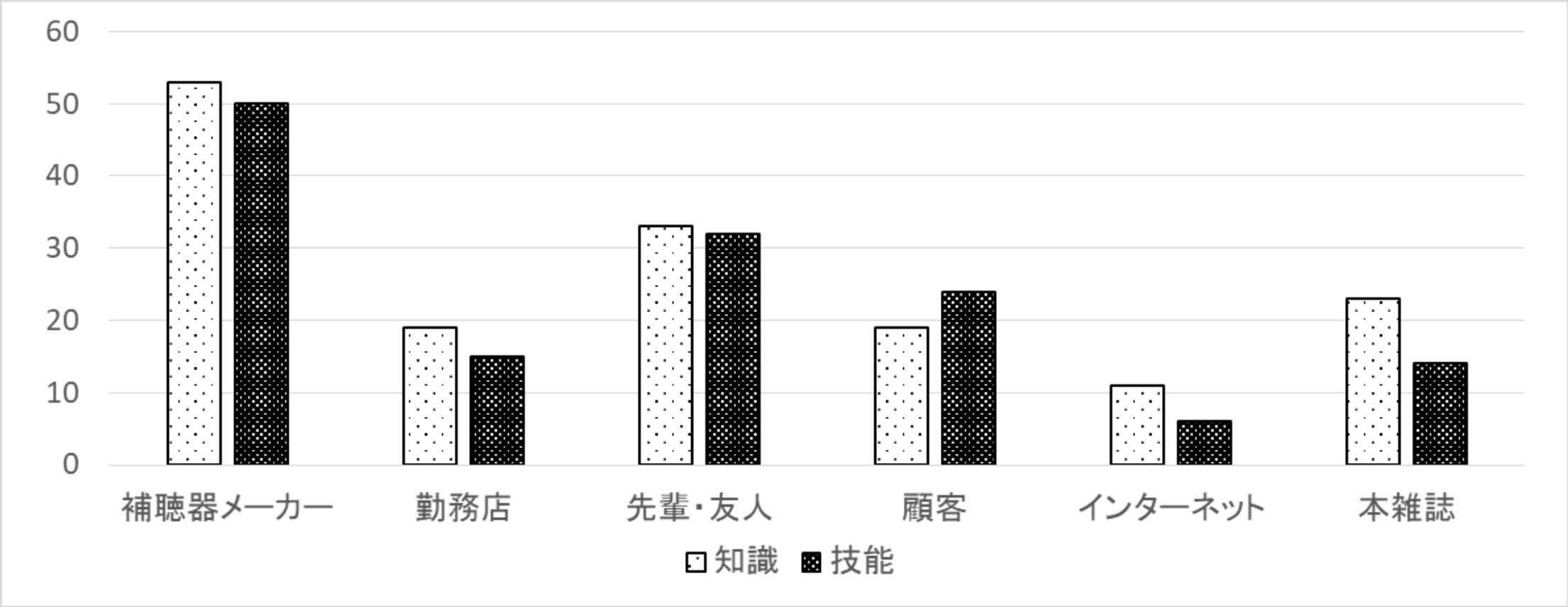
経験年数（人）



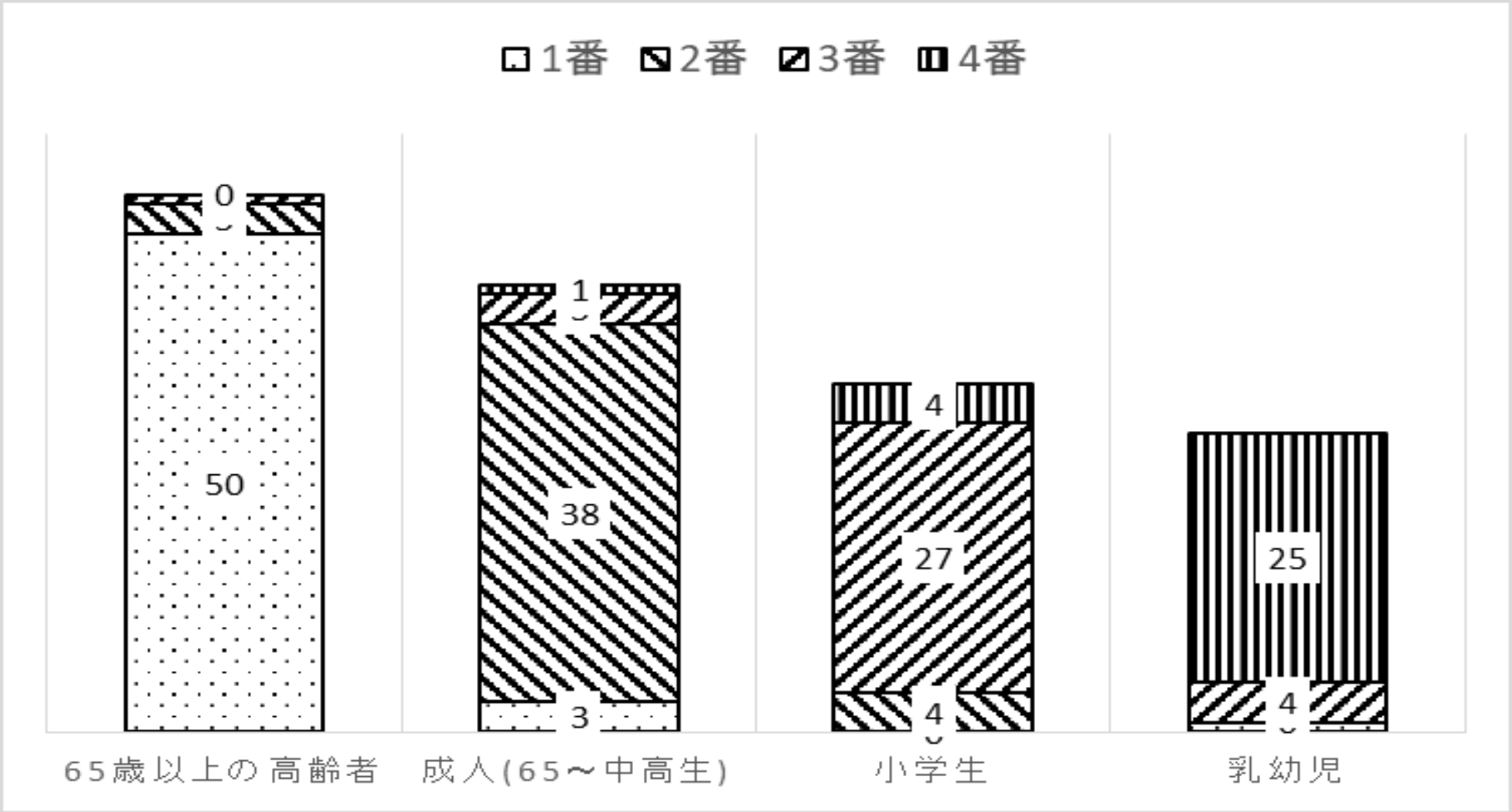
勤務形態 （人）



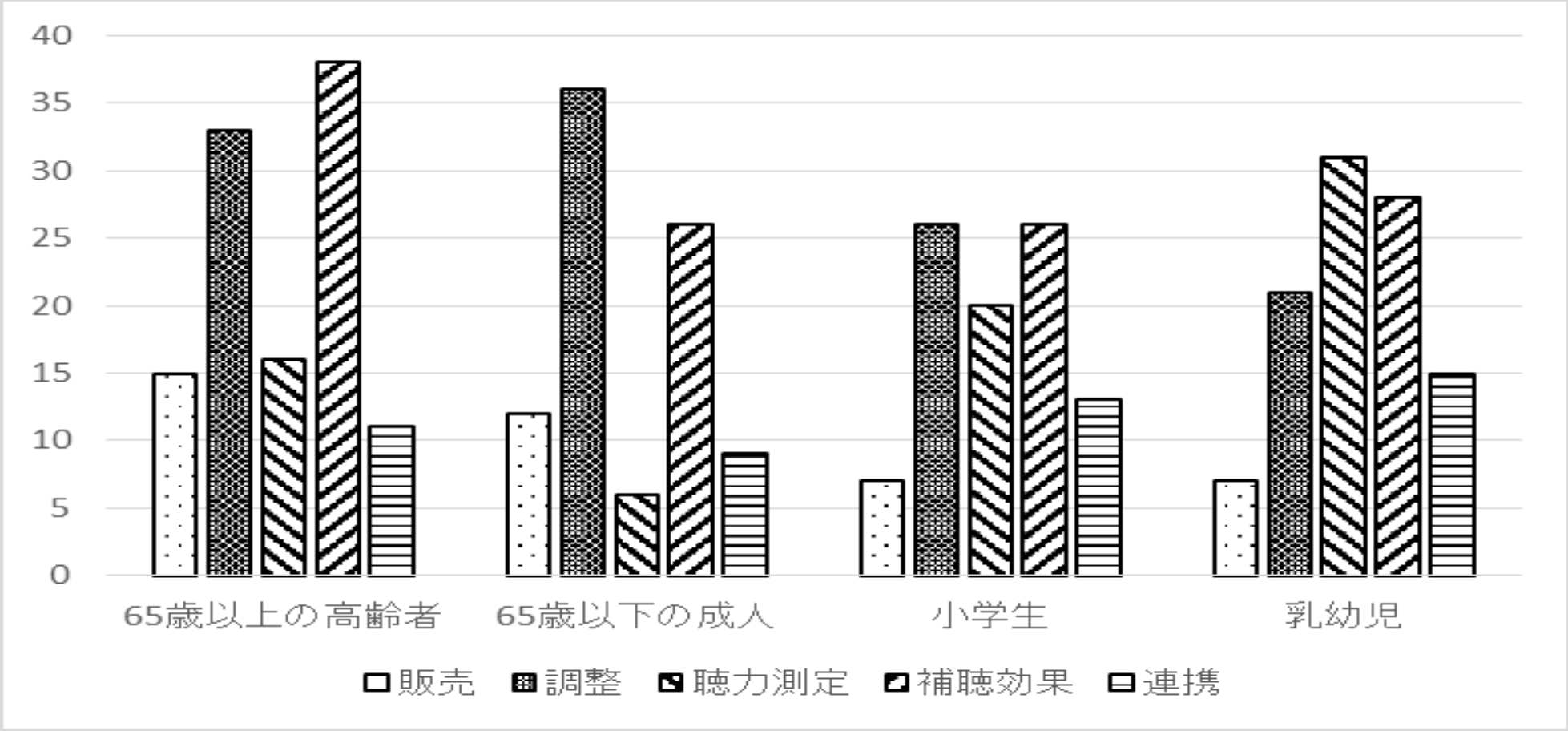
⑤補聴器の知識や技能の入手先は補聴器メーカや先輩・友人からが多い



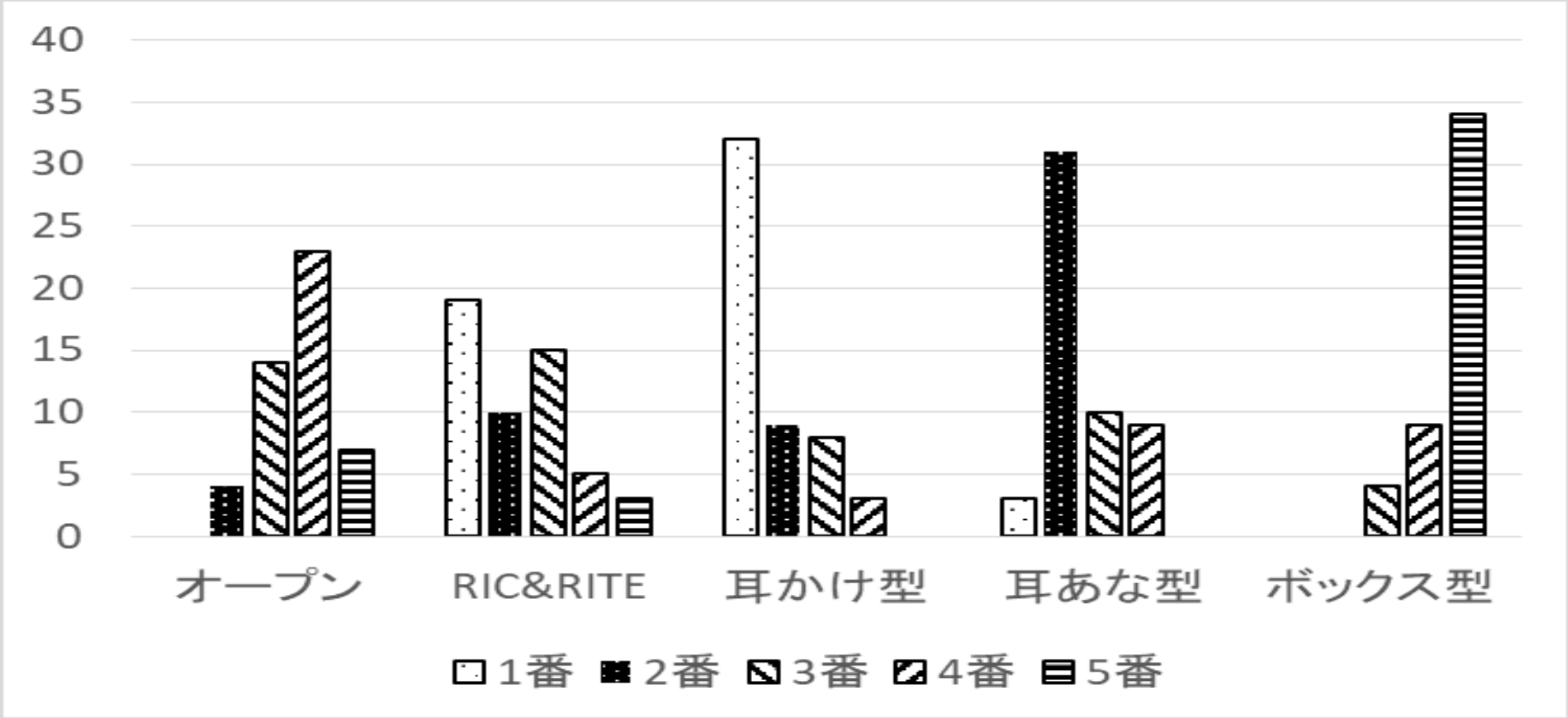
⑥補聴器をフィッティングする対象(顧客)は高齢者・成人が多い



⑦認定補聴器販売店にお勤めの方は補聴器の調整や補聴器の装用効果に関心を持っておられる方が多い

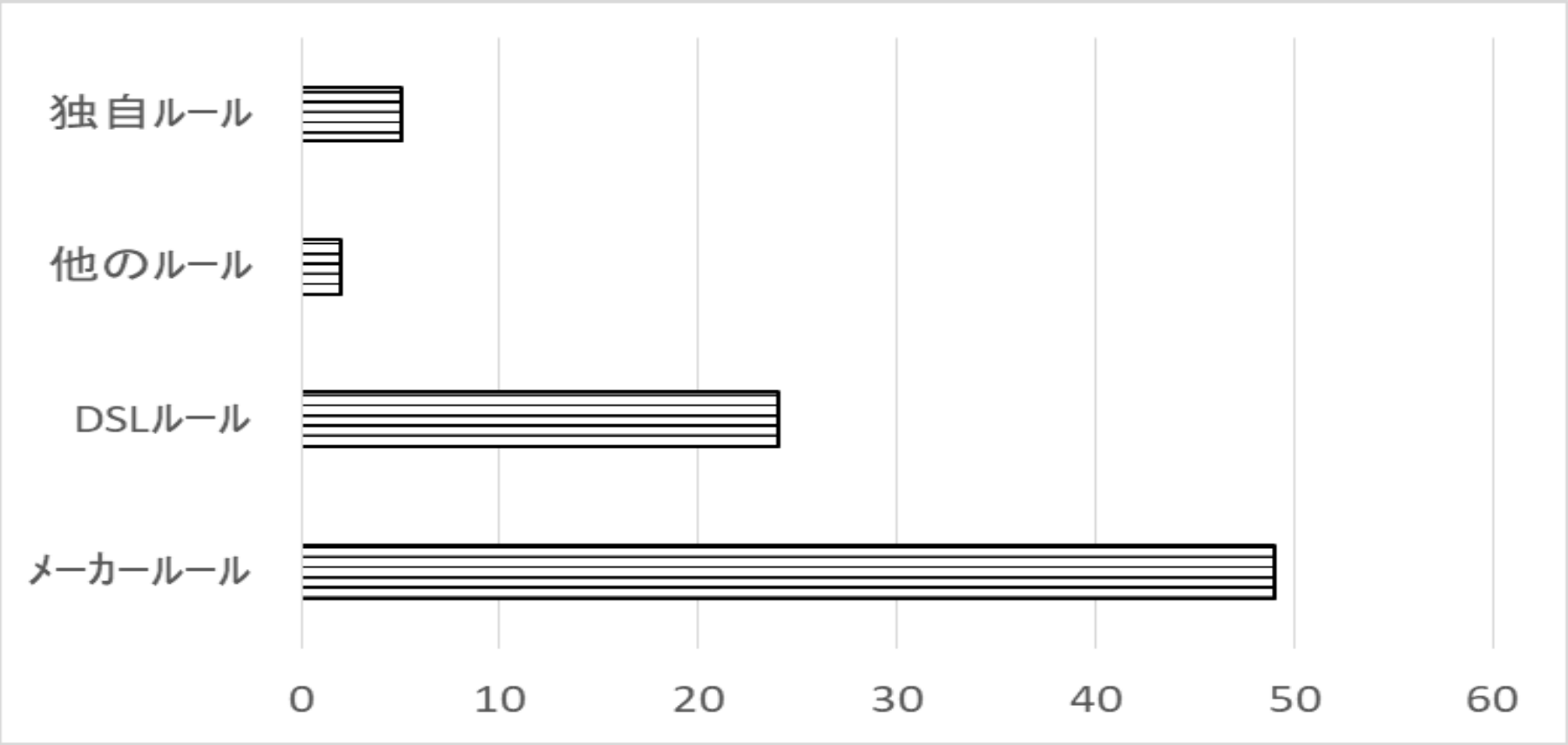


⑧認定補聴器販売店の方がフィッティングする補聴器は、耳かけ型、耳あな型がオープンタイプやRIC・RITEより多い



耳かけ型オープンタイプ(左)とRICやRITE(右)とは

⑨補聴器を最初に合わせるのに用いるルール：補聴器メーカが推奨するルールに従う方が多い



認定補聴器販売店から頂いた自由記述(抜粋)

- 難聴により生活で不便を感じている患者様に対して補聴器をもっと勧めてもらいたいです
- 補聴器に対する正しい知識・情報の少なさは問題であると思います。集音器と補聴器を一緒に考えておられたり、メガネのようにすぐ合うと思われている方、調整が必要と知らない方が圧倒的に多いです。またこれは販売店側の問題ですが、値段の相場を知らない方が多く「2万ぐらいで買えると思った」と言われることが多いです。高い補聴器には高いなりの理由があり様々な機能がついてお客様の要望に沿いやすいのに耳鼻科さんやメディアに「高いからいいわけではない」「安いので十分」と表記されていることが多いことも気になります。そうなるとお客様も「安いので」となってしまい、結果「周りの音がうるさい」と負の印象になってしまうこともあります。

- 聴力の把握→補聴器の調整→補聴効果→客観的評価に基づいて良し悪しの判断の難しさ
- 高性能機種の性能の良さを高齢者が感じないケースが多いように思う
- 補充現象をお持ちの利用者さんの対応(測定等含む)についてもっとできることはないかと、日々自問自答しています。近隣の療育機関と連携が深まると良いとも考えます。
- 個人によって差があり、経験上の調整がすべてではないと感じる時がある。
- 聴力の低下は補聴器により、ある程度補うことができるが、高齢者の聴覚(語音弁別)低下による言葉の理解力は生理的な事もあり、全て補聴器で解決するには限界があると思います。
- カウンセリングやきこえの全体像の重要性を常々感じています。
- 最近、難聴に伴う耳鳴りの症状を訴えられる患者様が増えてきました。補聴器やSGを使った音響療法を院内で行っておりますが、必ずハーフゲインまで音を上げていく方法に疑問を感じることがございます。閾値、最高明瞭度、患者様の苦痛度や訴えも考慮した調整をしてあげたいと思うことがございます。
- 補装具費の補助申請にあたり。両耳装用が認められないことや、耳鼻科でも補聴器に対して消極的を適にして否定的な先生がまだいらっしゃることを耳にする点。
- 他

- 学校や療育機関との連携の内容例

関与の度合い	連携の内容
小	補聴器・周辺機器の情報提供
	イヤモールドの製作
	補聴器フィッティングへの関与の大きさ
	・アドバイスに止まる
大	・実際に補聴器をフィッティングする

- 最短で5年に1回の総合支援法による補聴器の更新
- その間は補聴器の点検や修理、イヤモールドの製作